

市内7か所に給水スポットを設置
マイボトルを持って出かけよう

市では、プラスチックごみの削減を推進するため、マイボトル普及促進の一環として市内公共施設に給水機を設置しています。



市内設置場所

- ・市役所第二庁舎
- ・庄内コラボセンター「ショコラ」
- ・千里文化センター「コラボ」
- ・中央公民館
- ・蛍池公民館
- ・環境事業所
- ・とよなか男女共同参画推進センター「すてっぷ」



全国初！！
鉄道駅構内で給水機の実証実験

NATS4市（下記参照）及びウォータースタンド株式会社は、阪急電鉄株式会社の協力のもと、令和4年（2022年）9月13日から11月11日まで各市合計4駅に1台ずつ給水機を設置し、駅構内でどれだけ利用されるかを検証するとともに、課題を抽出するための実証実験を行いました。

この実証実験により、阪急電鉄は、市内では岡町駅に給水機を設置することとなりました。

NATS NATSとは…

隣り合う中核市の西宮・尼崎・豊中・吹田の4市の頭文字を並べて表現した「NATS（ナッツ）」。府県の枠組みを越えて広域的に連携した取り組みを行っています。



事業系一般廃棄物管理責任者研修会を開催

令和4年（2022年）9月、事業所から排出されるごみの減量やリサイクルを推進するため、事業者を対象とした事業系一般廃棄物管理責任者研修会を開催しました。

豊中SDGsネットワークの下司聖作（げしせいさく）さんを招き、「気候変動とごみ減量について～1パーセントの変化が劇的に世界を変える！～」と題し、持続可能な開発目標13「気候変動に具体的な対策を」から、廃棄物の管理や削減する目的等についてご講演いただきました。



24人が参加しました



講師の
下司聖作さん

環境美化功労者に感謝状を贈呈

市内では、地域ボランティアの清掃が活発に行われており、市は、このような取り組みに必要な用具の貸し出しや、ごみ袋の配布、清掃後のごみ収集などの支援を行っています。

このような地域清掃活動に登録し、3年以上、まちの美化に貢献した個人や団体を表彰しており、令和4年度（2022年度）の環境美化功労者として北方龍二さん（個人）、プリチストーンタイヤ北大阪販売株式会社（団体）に感謝状を贈呈しました。



北方龍二さん



プリチストーンタイヤ
北大阪販売株式会社

リユース活動の促進に向け、事業者と連携協定を締結



一度に複数のリユースショップの買い取り価格を比較
手間なく売却できるサービス

市では、「株式会社マーケットエンタープライズ」が運営するリユースプラットフォーム「おいくら」を通じたリユースを促進しています。まだ使用できるものを廃棄する前に、売却することでリユースにつなげられないか一度ご検討ください。

不要になったけど、まだ
使用できるものを地域内で
譲ることができるサービス



また、「株式会社ジモティー」とも協定を結んでいます。粗大ごみの中にはまだ使用できるものがたくさんあります。必要としている人がいるときは、譲ることで廃棄されるごみも減っていきます。手軽にリユースに取り組んでみましょう。

ハッピー(8%)ごみ減量プラン
(第4次豊中市ごみ減量計画)



令和4年度
(2022年度) 事業等報告書 速報版

ハッピー(8%)ごみ減量プラン事業等報告書速報版は、当プランの年度ごとの進捗状況を速報版としてまとめたもので、ごみの状況をみなさんにわかりやすく紹介するとともに、ごみ減量施策の進捗状況に対し、ご意見をいただき、今後の事業展開に活かすことを目的としています。

【ハッピー(8%)ごみ減量プランの改定】

市は、令和5年（2023年）3月、廃棄物を取り巻く社会情勢や新型コロナウイルス感染拡大による経済活動の変化に対応するため、「第4次一般廃棄物処理基本計画」を改定。これに合わせ、アクションプランである「ハッピー(8%)ごみ減量プラン」についても改定を行いました。

【ハッピー(8%)ごみ減量プランの概要】

基本理念は



〇協働で取り組む循環型社会の構築

基本施策は



〇廃棄物の減量に向けた発生抑制・再使用と質の高いリサイクルの推進

【ハッピー(8%)ごみ減量プランの減量目標】

減量目標

ごみの焼却処理量を令和9年度(2027年度)には平成28年度(2016年度)実績より8%削減

平成28年度(2016年度)
103,584t/年

8,303t削減

令和9年度(2027年度)
95,281t/年

令和9年度(2027年度)
95,368t/年(計画改定前)

個別目標

★家庭系ごみ1人1日当たり量(再生資源除く)

平成28年度(2016年度)
414g/人/日

20g削減

令和9年度(2027年度)
394g/人/日

令和9年度(2027年度)
386g/人/日(計画改定前)

★事業系ごみ量(再生資源除く)

平成28年度(2016年度)
43,099t/年

約6千t削減

令和9年度(2027年度)
36,601t/年

令和9年度(2027年度)
38,191t/年(計画改定前)

★食品ロス1人1日当たり量

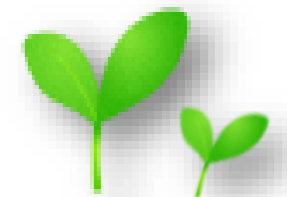
平成12年度(2000年度)
166g/人/日

57.2g削減

令和9年度(2027年度)
108.8g/人/日(必達目標)

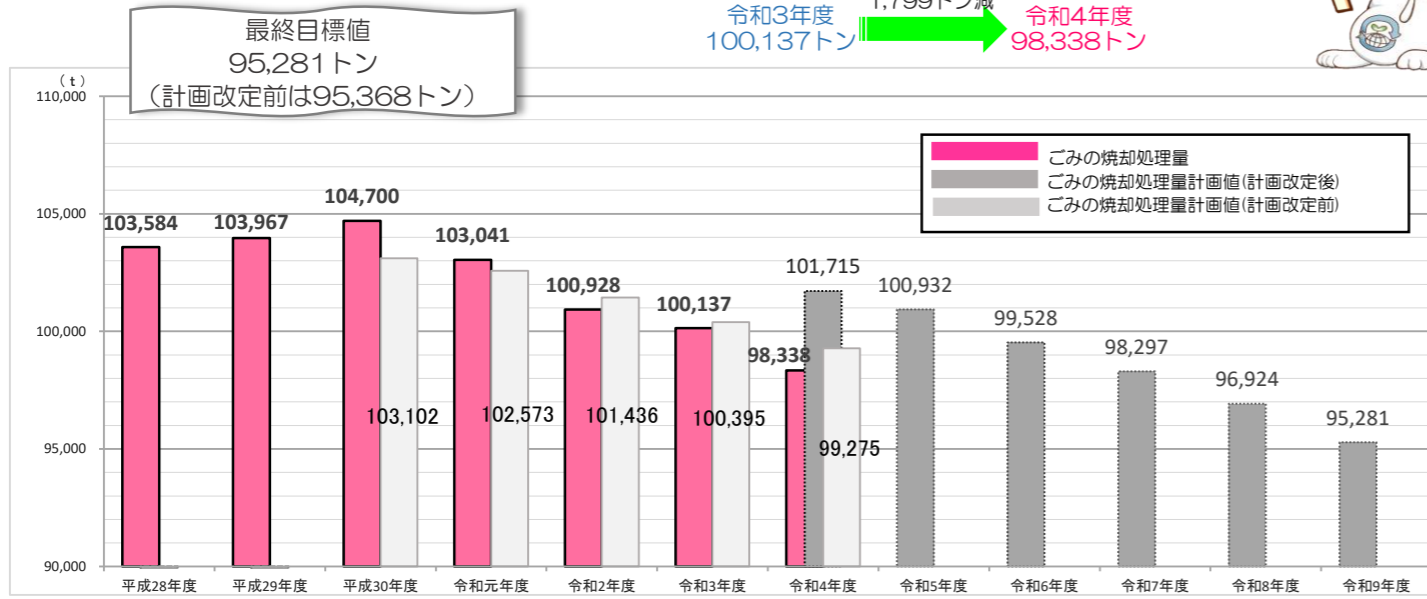
71.3g削減

令和9年度(2027年度)
94.7g/人/日(高位目標)



令和4年度(2022年度)のごみ減量の進捗状況

ごみの焼却処理量



要因分析

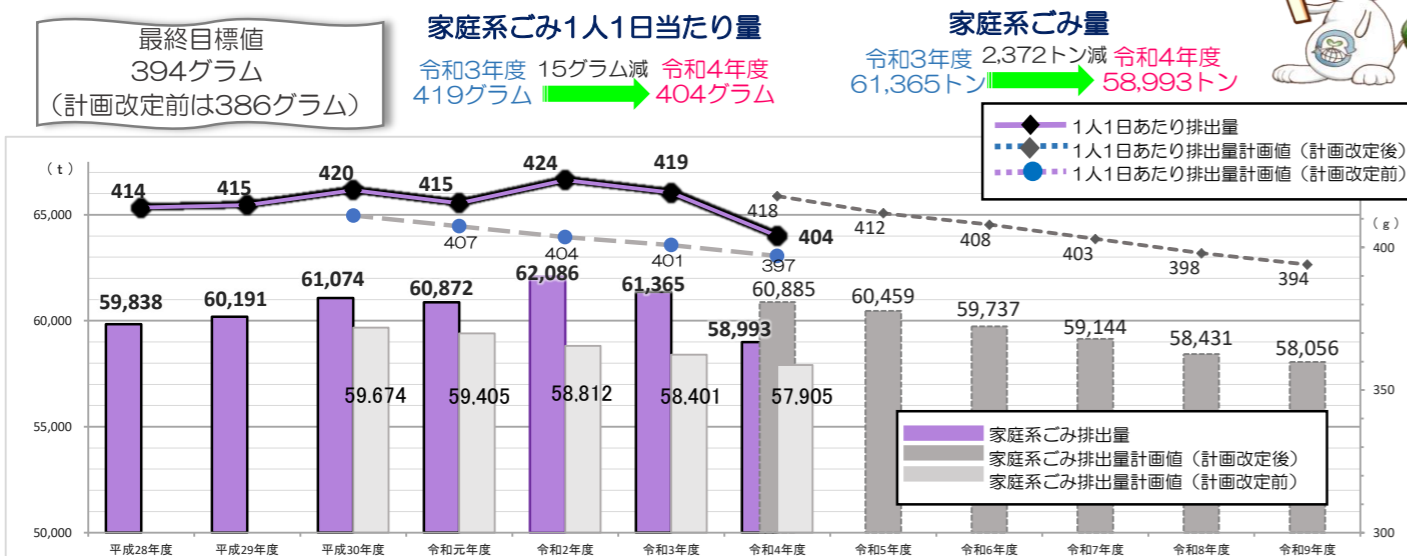
「ごみの焼却処理量」は、令和3年度比、1,799トン減少しています。その要因として、令和2年度から続いていた新型コロナウイルス感染拡大による行動制限等が緩和され、外出の機会が増えたことで、家庭から排出されていたごみが大きく減少したのに対し、事業系ごみは増加に転じましたが、事業者のごみ減量の取組みにより、上昇幅が抑えられたと推察されます。

審議会からの評価

当年度の目標値を大きく達成しています。新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着くとともに、これまでのごみ減量施策も相まり、家庭系ごみが大きく減少したことが要因ですが、事業系ごみに関しては、今後もまだ増加する可能性があります。引き続き、家庭・事業系ごみの減量に向け、効果的な施策に取り組む必要があります。



家庭系ごみ1人1日当たり量・家庭系ごみ量(参考)



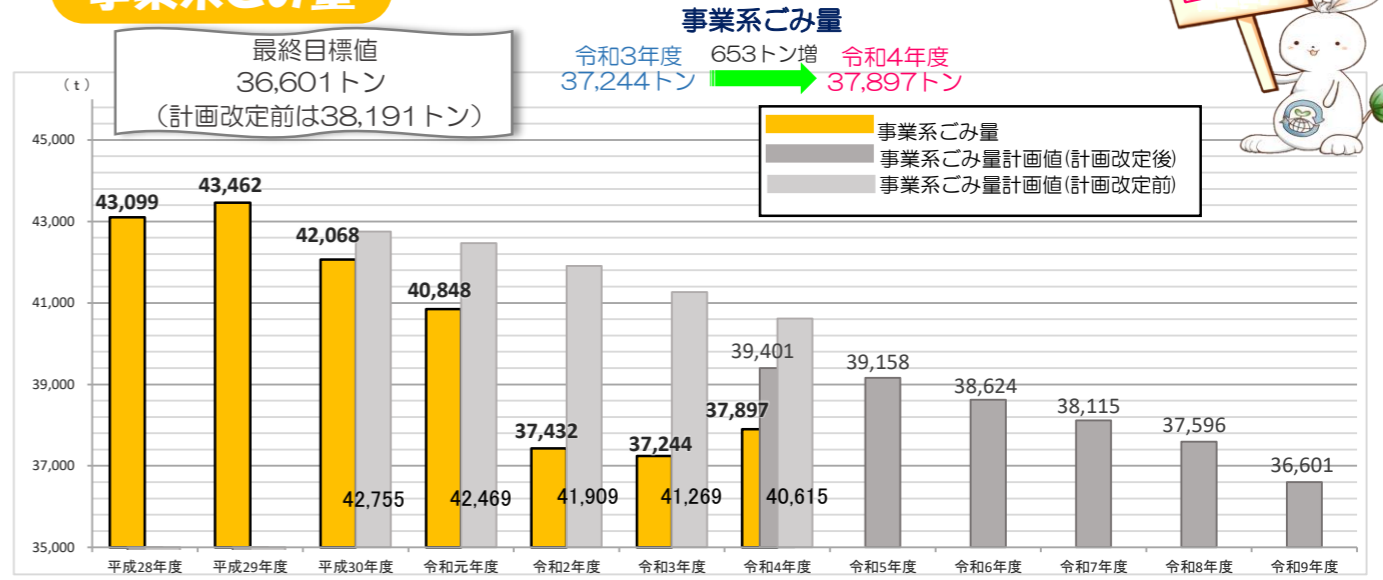
要因分析

令和4年度ごろから社会が「Withコロナ」の風潮となり、人びとの外出の機会が増えたことから、家庭系のごみは大きく減少したと考えます。また、インターネットを活用したリユース活動の普及なども相まって、市民のごみ減量に対する関心が高まりつつあると推察されます。

審議会からの評価

社会情勢の変化も伴い、家庭系ごみが減少しました。今後は、プラスチックに対する発生抑制と確実なリサイクルを啓発するとともに、食品ロス削減の取組みを継続的に行っていく必要があります。

事業系ごみ量



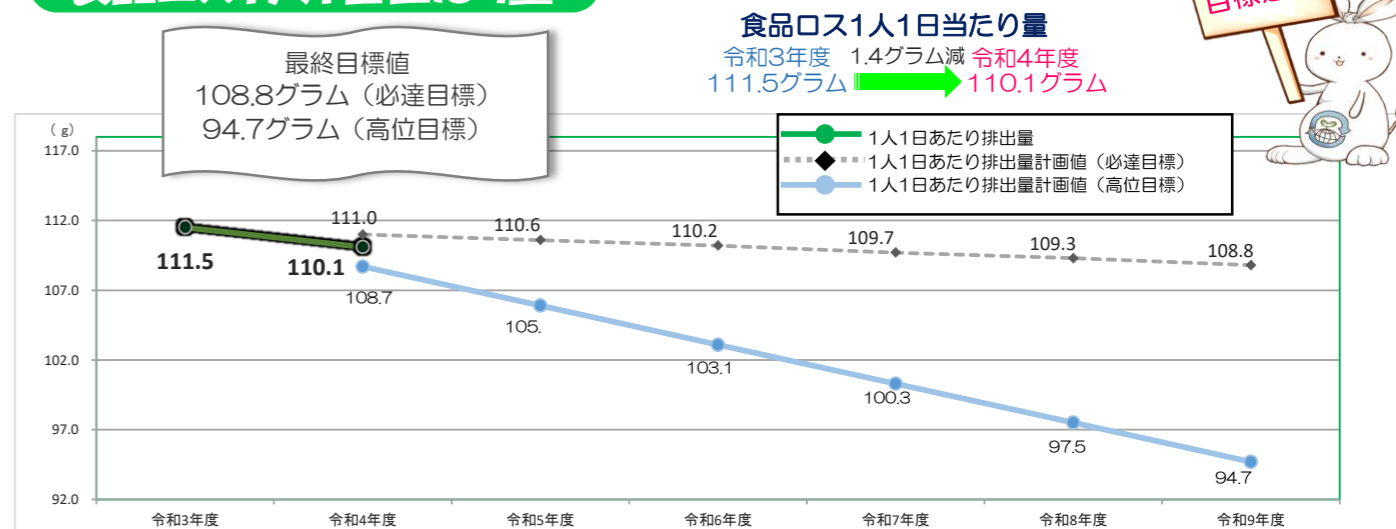
要因分析

「事業系ごみ量」は、人びとの外出の機会が増えたことにより、事業活動が回復し、増加に転じましたが、事業者のごみ減量の取組みにより、微増で推移したと推察されます。

審議会からの評価

今後の事業活動の一層の活発化により、事業系ごみ排出量の増加が懸念されることから、引き続きごみの削減に取り組む必要があります。

食品ロス1人1日当たり量



要因分析

フードドライブ事業やてまどりキャンペーンなど、食品ロス削減につながる取組みを推進した結果、市民意識の向上につながったと推察されます。

審議会からの評価

家庭系ごみが減少したことにより、相対的に食品ロス量が減少したと考えられますが、事業系ごみの増加が懸念されることから引き続き食品ロスの削減に向けた取組みを推進することが不可欠です。

リサイクル率(参考指標)

進捗状況

- 計画改定後、参考指標に位置付けました。
- 令和3年度は16.3%でした。
- 令和4年度は16.0%で、0.3ポイント減少しました。

今後の方向性

外出機会の増加で、宅配やテイクアウトなどの需要が減り、容器包装などの再生資源の使用が少なくなったこともあり、減少したと推察されます。社会全体で徹底した資源循環の促進が求められるなか、今後も適正な分別・排出に向けた取組みを推進していきます。